

トランプ政権と福音派

Trump Administration and Evangelicals

加藤隆治*

Ryuji Kato

Abstract

It is well known that most of white evangelicals strongly support Trump. Why do they continue to support the president who utters unethical things repeatedly? Even famous evangelical leaders, such as Jerry Falwell Jr., decided to endorse Trump, not someone more suitable for devout Christians, during the presidential campaign.

White evangelicals feel isolated and frustrated because of the rapidly changing American society, where people has been gaining more support for gay marriage and LGBT rights. Between 2007 and 2014, the unaffiliated experienced growth from 16.1% to 22.8%; on the other hand, the Christian share of the population fell from 78.4% to 70.6%. The Census data reveals projection of the nation's population, which predicts that shrinking white population will be minority-majority by 2043.

Trump's effect on the U.S. has done more to divide the country, but for the evangelicals, he has brought needed changes. Trump picked Neil Gorsuch, who is a famous for conservative and pro-life, to fill the open seat for a Supreme Court justice. This nomination was even called "a payback to evangelicals" by the media. Trump issued many presidential executive orders and one of them is "Promoting Free Speech and Religious Liberty." This is also called "license to discriminate" and could serve as anti-LGBT slogan by opposing LGBT rights and supporting a marriage equality ban.

This is why we have to look into what Trump says or does in terms of evangelical aspects. He said in a speech, "We're gonna be saying Merry Christmas again" in 2017. This is not the first time that he insisted people will be saying "Merry Christmas" again. This anti-political correctness message is simple and leads to cultural warfare for evangelical audiences. Some evangelical leaders compare Trump to historical figure, Cyrus the Great, or Samson who appears in the Bible. Both are well known as those who helped Israelites.

序論

ドナルド・トランプ (Donald Trump) が第45代アメリカ大統領に就任してから1年以上経過したが、相変わらずSNSを通じての大統領らしからぬ攻撃的なツイートや、政権中枢での権力闘争が絡んでいるとみられる高官の辞任や更迭が相次いでいる。加えて、特に環境問題などアメリカ国内に限らず世界的にも批判に晒されている政策を押し進めようとするなど様々な問題を抱え、一見したところ綱渡りの政局運営を強いられていると見られがちである。しかしながらトランプ政権は、多数のスキャンダルを抱えフラフラの安倍政権同様継続している。それはとりもなおさず、熱烈な支

持者が変わらずトランプ支持のまま離れてはいないということを表している。これを証明するように、昨年10月に最低支持率に到達したという報道がなされた以後も、度々最低支持率を更新という話題が報じられていたが、30%台に踏みとどまり、ある一定の支持率を維持しているという点からもコアとなる支持者はトランプ大統領個人、及び彼の政策を支持していることが伺える。

では、トランプ大統領を支持する人たちとは誰なのか。一般的にはラストベルトを中心とした工業地帯の労働者が彼の支持層であるという捉え方をされている。もちろん、それは事実である。これまで、民主・共和いずれの党からも見放されてき

* 北海道科学大学薬学部薬学科

た層を熱狂させ熱烈な支持を集めたのは選挙結果からも明らかである。

しかし、宗教的側面から大統領選の投票行動を探ってみると、トランプがヒラリー・クリントン (Hillary Clinton) よりも圧倒的に福音主義派 (evangelicals) からの支持を得ていたことが分かる。福音派は従来から共和党支持の割合が高かったので当然の結果とは言えるが、他の宗派と比較すると白人福音派によるトランプ支持が圧倒的に高いのである。白人福音派/ポーン・アゲインでは81%がトランプに投票し、クリントンはわずか16%である。カトリックだとトランプ45%、クリントン52% (白人のカトリック教徒に限ればトランプ60%とクリントン37%になる)、プロテスタント全体ではトランプ58%、クリントン39%となり、福音派からの支持が突出していたことがわかる。福音派の共和党大統領候補への投票行動は、過去3回の大統領選挙に遡ってみると、ミット・ロムニー (Mitt Romney) で78%、ジョン・マケイン (John McCain) で74%となりトランプよりも比率が下がるのは、2人が中道寄りなので理解できるが、福音派から人気の高かった2004年のジョージ・W・ブッシュ (George W. Bush) の2期目78%よりもトランプの方がわずかに数%ではあるが高いのは驚愕である。⁽¹⁾

2016年の大統領選挙でのトランプの勝利は、キリスト教からの視点が欠如しては正確な分析は行えない。投票結果からはキリスト教右派、さらに言えば福音主義派の白人層がトランプを支える屋台骨であったことが分かっている。なぜ、彼らはトランプを強固に支持するのか。共和党での予備選挙段階で、主義主張がより近いはずのテッド・クルーズ (Ted Cruz) を支持するほうが福音派にとってモラル上正解ではないのか。日本ですら、2016年の3月には「国民皆保険 (オバマケア) や銃規制に反対なのはもちろん、LGBTや妊娠中絶、障害者権利に反対、進化論や地球温暖化も否定している。また、『小さい政府』を目指しているため、エネルギー、商務、教育、住宅都市開発の各省を廃止、税率を一律にして内国歳入庁を廃止することも主張。」とネット記事でもクルーズの主張と福音派の近似性は報じられていたくらいである。⁽²⁾

(注1)

少なくともトランプは敬虔なキリスト教信者ととらえられていなかった。2016年7月のピューリ

サーチセンターの調査は、共和・民主両党の候補者間での差が分かりやすく出ているので、国民がどう候補者を捉えていたかを知るには格好のデータになっている。例えば、トランプが「ひじょうに宗教的である (very religious)」と答えたのはわずか5%しかいない。これはクリントンの10%よりも低い数値である。ちなみに他の共和党予備選挙の候補だったベン・カーソン (Ben Carson) は35%、クルーズは25%のように、元々福音派から人気のある候補は%が高い。「あまり/まったく宗教的ではない」だとトランプは60%に達し、他候補を圧倒する。それゆえ、当初、宗教票はあまりトランプへと流れてはいなかった。⁽³⁾

他にも、トランプは2016年1月に、福音派の大学であるリバティー大学で演説をする際に“Second Corinthians”と言うべきところを、“Two Corinthians”と発言している映像が残っている。よくよく聞いてみると、会場からは失笑が漏れているのが分かる。これだけでも、彼が福音派のような敬虔なキリスト教徒からどのように見られていたのか想像がつく。(注2)

大統領選挙時に相当取り沙汰された様々なスキャンダルや、セクシャル・ハラスメントまがいの (というか、そのものと言っていい) モラルに欠けた言動、最近のポルノスターとの手切れ金問題などスキャンダラスな話題に枚挙にいとまがない彼は反道徳的とすら言える。にもかかわらず、道徳的な規範に厳しいはずのキリスト教右派からの支持が離れないのは何故か。いや、そればかりか福音派からは、トランプを歴史上のペルシャのキュロス大王 (Cyrus the Great) や聖書に登場するサムソン (Samson) (いずれもイスラエルの民を救った) に例える声さえ聞こえてくる。

本稿では、まずキリスト教を取り巻くアメリカの最新状況を整理しておきたい。特に白人福音派がアメリカ社会で抱えている疎外感をあぶり出すことがポイントである。そして、トランプ政権誕生から現在に至るまでのキリスト教右派勢力との関係性を時間軸を追いながら、いかにトランプ政権の誕生にキリスト教右派が寄与していたのかを明らかにし、トランプの政策や言動が、福音派という巨大な支持勢力を意識したものであることを探っていきたい。

福音派の現状と疎外感

アメリカ人がいわゆる先進諸国では群を抜いてキリスト教信者のパーセンテージが高いキリスト教国家であるのは周知の事実である。2014年のピューリサーチセンターのデータでもキリスト教信者は約7割を超えている。⁽⁴⁾ 2017年のギャラップの調査でも同様の結果が出ている。⁽⁵⁾

そのうち福音派プロテスタントは25%ほどもいる。プロテスタント以外にもマイク・ペンス(Mike Pence)副大統領のようにカトリックや他の宗派においても福音派を名乗る人たちはいるので、実質、福音派の比率はもっと多いと言える。

過去40年ほど、アメリカ人の宗教性の枠組みに大きな変化はみられない。ただ、ここで注意しておく必要があるのは、キリスト教国家という基本そのものに変化はないものの、オバマ政権8年を経て現在に至るまで徐々に地殻変動が起こりつつあるのが世論調査から明らかになっている。

ピューリサーチセンターの調べによると、2007年から2014年にかけてのアメリカにおける信仰に関する調査で、キリスト教以外の信仰が1.2%、特定の宗教をもたない人たちが6.7%も増加したのに対し、キリスト教は軒並みその比率を下けている。主流派プロテスタントは3.4%、カトリックは3.1%、福音派のプロテスタントですら0.9%下げている。キリスト教の総数でも78.4%から70.6%へと比率を落としている。⁽⁴⁾

キリスト教をベースとして成立し今現在もキリスト教国家であり続けるアメリカにおいて、このようなキリスト教離れの進行を如実に示す数値はアメリカの宗教界に衝撃を与えたであろうことは想像に難くない。同じデータを年代別で見るとより深刻な現状が浮かび上がってくる。どの世代でも、無宗教の比率が2007年から2014年にかけて増加しているだけでなく、若い世代ほど無宗教の比率が高いという結果が出ているが、特に“younger millennials”と呼ばれる1990年代生まれの若者達では、福音派が19%なのに対し無宗教の比率が36%となりその世代で最も高い比率を示している。加えて、より新しいギャラップの2000年から2016年にかけての調査で、「特定のプロテスタントに所属している」が50%から30%へと数値を落としているのに対し、「無宗教」が10%から20%へと漸次上昇している。^(6,7)

もちろん、ボーン・アゲインということもあるのだが、この世代の人がそのままの比率で年を重ねる

ということはないだろうが、このデータはキリスト教の比率が減少傾向にあることを明確に提示している。この事実は、将来的に人口比率で白人がマジョリティ・マイノリティ(全体ではまだ多数派だが、50%以下に減少する)になるという予測と同様の危機感をもって受け止められている。

聖書を絶対的なものとみなし、その無誤謬性を信じる福音派をさらに悩ませるのは、アメリカにおける同性婚受容の気運が高まっていることである。オバマ前大統領の功績を問われた際になかなか思いつかない人もいるかもしれないが、彼が現職だった8年間に、LGBTに対する風向きが確実に変わり、アメリカにおいて彼らの権利獲得が進行し、その風潮を現役大統領として後押ししたという点を彼の業績の一つとして評価してもいいだろう。

オバマ前大統領は“Every single American—gay, straight, lesbian, bisexual, transgender—every single American deserves to be treated equally in the eyes of the law and in the eyes of our society.”と、2011年10月1日Human Rights Campaign’s Annual National Dinnerのスピーチで述べるくらいにLGBT容認の姿勢をとった。

2015年6月までに36州とワシントンDCで同性婚が州レベルで認められるなど増加傾向にあったが、同年、最終的に最高裁で同性婚が合法であるとの判断が下されることになる。判事9人中5人の多数意見ではあったが、長年法廷で争われてきた問題に一応の司法の決着がついた形である。(注3)

この動きに呼応する形で、同性婚が有効か無効かを問うギャラップでの調査において、2011年に初めて「有効」と答える人のパーセントが上回った。最新の2017年の同性婚が合法であるべきかどうかという調査でも「合法であるべき」が64%、「合法であるべきではない」が34%とその差がさらに開き、同性婚は完全にとまでは言えないにしても、アメリカ社会で一定の理解を得たことが分かる。アメリカが若い世代を中心にして近年変化に晒されているのはこの同性婚を巡る変化からも見えてくる。⁽⁸⁾

白人福音派は、自らの思想信条からは乖離していくばかりのアメリカでの現状から、いわゆるマイノリティよりも自分たちの方が差別されているという感情を抱く人が増加してきている。これも

ピューリサーチセンターからの2016年のデータだが、「アメリカで福音派キリスト教徒でいることがより困難になってきている」と感じる白人が46%もいて、非白人が同じ調査で答えた比率の31%を大きく上回っている。さらに、2014年の42%から微増だが増加傾向にある。⁽⁹⁾ また、「キリスト教徒に対する差別が、他の集団に対する差別よりも大きな問題となってきている」と感じる白人の福音派プロテスタントは70%にも登り、アメリカ人全体の49%よりも20%強も高い。⁽¹⁰⁾ 彼らがいかにアメリカの現状において不満を抱えているか、また差別されていると感じているかが分かるデータである。

関連して思い出されるのは2017年8月バージニア州シャーロットツヴィルでの痛ましい事件である。白人至上主義者やネオナチ、さらにはKKKなどが参加する集会で、ある白人至上主義者が運転する車が、その集会に対し抗議していた人たちの列に車で突っ込み一人が死亡、10人以上が負傷した。発端は南部でのリー将軍など南北戦争時に南軍で功績のあった歴史上の偉人の銅像の処遇を巡る騒動である。「南軍に功績がある」イコール黒人差別を支援した、そういう人物の像をそのままにしておいてもいいのかという検証が近年アメリカでは進んでいる。シャーロットツヴィルでも、リー将軍の像を撤去する予定であった。CBSの調査で、「この件に関するトランプの対応は肯定できるか」という質問で、「肯定できる」は共和党支持者で67%、民主党支持者で10%、「肯定できない」は共和党支持者で22%、民主党支持者で82%となっている。

⁽¹¹⁾ 党派で明確な差が出ているが、福音派で同様の調査があればより差がついたことが予想される。白人の立場からすると黒人などマイノリティの権利ばかりが声高に主張され、自分たちはなおざりにされているといういら立ちがこの結果に表れている。言い換えれば、白人至上主義者やネオナチやKKKのような思想を持ったものに限定されない、多くの白人が同様の焦燥感や差別を感じていることが分かる。

さらに、白人がアメリカにおいてマジョリティ・マイノリティに落ち込むと予想されていることが彼らの危機感に追い討ちをかけている。国勢調査のデータに基づくある予測で、2012年には白人が全米人口の63%を占めているが、2060年には43%に減少する。それを18歳以下の人口で見ると、

53%から33%へと減少するだけではなく、ヒスパニック人口が38%と白人人口を上回るなど白人人口の大幅な減少予測が目を見く。⁽¹²⁾ 州レベルで見れば、この数年で、すでにカリフォルニア州とニュー・メキシコ州は2000年に、テキサス州は2004年に、ネヴァダ州が2016年に、白人がマイノリティ・マジョリティになり、人口動勢における白人の割合減少が着実に進行している。⁽¹³⁾ この現状を踏まえての「メキシコ国境の壁建設」だと考えると、トランプが単に話題作り/人気取りのために無意味で無謀な計画を口にしてはいるのではなく本気だと分かる。

もう一つデータを加えれば、「本物のアメリカ人である」ために何が重要かという問いに、「クリスチャンであること」という選択肢では、65歳以上で「重要である」と回答したのは67%であるのに対し、18歳から29歳まででは35%と大幅に落ち込んでいる。⁽¹⁰⁾

ここまで述べてきたデータを総合していけば、白人福音派は、自らが信じるキリスト教的伝統から逸れた方向に向かいつつある文化が蔓延するアメリカで、信者数を今後も減らし続ける予想しかない上に、人口においてマイノリティになる将来が待ち受けているのである。このまま指をくわえて危機的状況を甘受することは耐え難いはずである。この逆境を転換させるためには、白人福音派は2016年の大統領選挙において、是が非でも勝てる候補を見だし当選させることが必須だったのである。

勝てる候補としてのトランプ

2016年の大統領選挙に向けた共和党大統領候補予備選挙において、当初トランプは前回の選挙同様泡沫候補と見られていた。また、どうせ早々に失言を連発し失速するだろうと、アメリカだけではなく日本でもそういう観測がもっぱらだった。しかし、失速するどころか、徐々に存在感を増しながら支持を拡大していった。

予備選当初、福音派などの宗教票はトランプに向かうことはなかったし、誰か特定の候補者に集約されてはいなかったように見える。これは、立候補していた候補者の顔ぶれを見れば、福音派が支持しやすい候補が乱立していたのが分かる。世界的な名声がある神経外科医で共和党としては初の黒人大統領候補にして敬虔なクリスチャンであ

るベン・カーソン、聖書の無誤謬性を信じ環境問題に懐疑的であることが知られている福音派のリック・ペリー (Rick Perry) 前テキサス州知事、元アーカンソー州知事で本人が福音派の牧師でもあるマイク・ハッカビー (Mike Huckabee) 、2012年の共和党大統領予備選挙でミット・ロムニーに迫る勢いを見せた、カトリックで保守派のホープと見なされていたリック・サンタラム (Rick Santorum) 、先ほども名前をあげたテッド・クルーズがあげられるだろうか。(注4) 数多くの名前が取り沙汰されていたにも関わらず、実のところ全員帯に短したすきに長しという候補者でしかなかった。

福音派からの支持は、他候補より新鮮で誠実さが売りだったカーソンに徐々に集約されるかに見えたが、2015年11月に自伝の記述に誤りがあるという報道で彼への期待は一気にしぼんでしまう。17歳当時に陸軍士官学校の奨学金の全額給付の対象になったというたった一つの「フェイク」で彼は支持を失ってしまう。スキャンダラスかつ嘘が多いトランプの発言との違いを感じずにはいられない。その後、クルーズがカーソンから宗教票を奪う形で急浮上して、トランプと熾烈な争いを演じていくこととなる。あろうことかそのクルーズは、3位につけていた、共和党内ではどちらかと言えば穏健派と見られているジョン・ケーシック (John Kasich) と共闘してまでトランプに対抗しようとする。なぜ、彼はこれほどに無謀な賭けに打って出ざるを得なかったのか。

この背後には、ある著名な宗教家のトランプ支持表明に端を発する、クルーズからの宗教票離れがある。テレヴァンジェリストとして名を馳せた、あのジェリー・ファルウェルの息子にして、彼が設立したリバティ大学 (Liberty University) の現総長であるジェリー・ファルウェル・ジュニア (Jerry Falwell Jr.) その人である。その彼が、2016年1月にトランプ支持を打ち出すのである。The Washington Postにも“Evangelical leader Jerry Falwell Jr. endorses Trump”という見出しの文字が踊った。(14) (注5) そう、間違いなくビリー・グラハム (Billy Graham) の息子のフランクリン・グラハム (Franklin Graham) と並んで、彼は現在の福音派リーダーの最重要人物の一人と言っていだろう。

ただ単なる一宗教家ということで彼を切り捨てる訳にはいかない。まずもってこのリバティ大

学は共和党の大統領候補にとってはある種の「聖地」になっていることを押さえておく必要がある。テッド・クルーズも彼の予備選のスタート地をリバティ大学に定めていたし、かつての共和党大統領候補でより中道寄りのマケインやロムニーですらここで演説をしているし、2016年の大統領候補予備選にクルーズやトランプとともに出馬していたカトリックだがインド系のボビー・ジンダル (Bobby Jindhal) ですら演説しているくらいである。共和党出身の候補者は福音派の票なしには勝てないし、その福音派への「あいさつ」としてリバティ大学は最適な場所なのである。The Washington Postでは、“Here’s why Liberty University has pilgrimage site for GOP candidates”という見出しで、リバティ大学の福音派における地位と、共和党候補における重要性について述べた2名の関係者の言葉の掲載している。ジョナサン・メリット (Jonathan Merritt) は、「リバティ大学は、福音派がいまだに繁栄していることの裏付けであり、保守的な福音派が現時点で必要としている希望の体現である」と述べている。ブレット・オドネル (Brett O’Donnell) は、「過去10年で大学の学生が大幅に増加し、ファルウェルの教えで教育された人たちが一般社会に大量に流入することで、リバティ大学の影響力が高まり強固なものになった」という内容のことを述べた。(15) リバティ大学が現在のアメリカにおいて確固たる地位を築き、福音派に対して強い影響力を固持しているか分かる発言だろう。

それゆえ、クルーズが共和党の大統領候補予備選への出馬表明をリバティ大学で行ったことは、福音派への「自分が福音派の皆さんのために働く候補者になります」という強いメッセージが含まれていたことがわかるし、同時に、彼が福音派の票を当てにしていたことに他ならない。そして、その目論見通りに彼に支持が集まったかのように見えた。

しかし、クルーズは元々ティーパーティーの支援を受けていたと見なされていたうえに、議会での21時間強に渡るフィリバスターを敢行したため共和・民主の両党からかなりのひんしゆくを買うなど全米レベルでの人気が高くなかったのも事実である。例えば、Newsweekの“Ted Cruz Could Be President—No, Seriously”という記事を読めば、彼の嫌われ者としての歴史がよく分かる。(16) その

ため、支持が宗教票の枠を超えて広がらない可能性が高い、つまり彼が共和党の大統領候補に選ばれたとしても、民主党の大統領候補（ヒラリーが民主党では選出される可能性が高かった）に敗北を喫するはずだとファルウェル等福音派のリーダーたちは予測したのではないか。確かにクルーズは信仰心は篤いかもしれないが、ティーパーティー支持者や宗教票以外は集められないのではないかという懸念が残る。一方、トランプは元々宗教票をあてにして選挙戦を展開していたわけではなかったため、そこに宗教票を加えれば支持は盤石になる。つまり、勝てる候補としてのトランプにファルウェルは賭けたと言える。

ファルウェルのトランプ支持は、福音派内で当然ながら諸手を挙げての賛成というわけにはいかず、すぐに卒業生や関係者などから非難の声が上がっている。ある卒業生は、“For a school that focuses on loving God and loving other people, it’s odd to endorse someone who only seems to love himself and other people who love him.”と、トランプへの嫌悪感とファルウェルの決定への違和感を表明している。⁽¹⁷⁾

元々、右寄りではない宗教家の Russel Moore は “Trading in the gospel of Jesus Christ for politics is not liberty but slavery.” などと批判している。⁽¹⁸⁾ 反トランプの流れは当選後も続いたため、リバティー大学卒業生による卒業証書の返還ということもニュースになったほどである。⁽¹⁹⁾

ファルウェルのトランプ支持表明後、当時、支持率の伸びが一段落した感があったトランプの人氣が、再度高まり始める。効果はてきめんだったと言わざるを得ない。福音派に対する NBC の調査では、2015 年の 12 月から 1 月にかけて、クルーズが支持率でトランプを猛追するが、ファルウェルの支持表明と同時期にクルーズの支持率が突然急落し始める。当時、トランプの支持率はどちらかと言えば頭打ちだったのに対し、これ以降、福音派内での支持を固めていくことになる。⁽²⁰⁾

トランプ陣営は福音派の支持をより一層確実にするため、正式に共和党の大統領候補に選出された後の 6 月に 1000 人も宗教家たちとの会合を持つ。この会合は明らかに福音派によるトランプ候補のスクリーニングという意味合いが強いものだった。当然、出席した人たちはトランプ候補が “religious liberty” に対する見解を求めたよう

だし、彼らにとって非常に重要な質問項目である “gay rights” についても聞いている。

前者に対しては、“I think it [religious liberty] is the number one question” と答え、後者に対しても、“the issue would be settled by a court decision, and [he] circled back to his list of potential Supreme Court nominees.” とトランプは反応している。⁽²¹⁾ つまり、トランプは福音派リーダーたちに対して、彼らの眼鏡にかなう人物を判事にすることを確約したのである。これは間違いなく福音派リーダーたちからすると満額回答と言えるだろう。

連邦最高裁判事は 9 名で、本人による辞任を除けば終身制であり、大統領が任命し上院が承認する。オバマ前大統領は在任中に 2 名任命しているが、その判事がリベラル寄りになるのは当然である。2016 年 2 月には保守派の大物であるスカリア判事の死去に伴い、1 名空席になり、リベラル 4 人に保守派 4 人と両派が同数になる。本来であれば、現職大統領が任命するはずだが、共和党が時間切れを狙いオバマの案に反対し続けたため空席のままになっていた。その空席をなんとしても保守派は奪取する必要があった。2016 年の大統領選挙は宗教界のみならず、様々な保守派にとって重大な意味を持つ選挙だったのだ。

だからこそ、利害を一致させたこの会合は両者にとって大成功と言える。トランプは「宗教の自由」を守り、最高裁判事には宗教界お墨付きの保守派を据えることを確約しただけではなく、その後の流れを見る限り、副大統領候補についてもやり取りがあったと考えるのが自然だろう。一方、それと引き換えに福音派の意見が集約され、結果的に全体でトランプのバックアップをする体制がこれで整ったのである。

当初には福音派からのトランプ支持が、特により信仰心に篤い人ほど支持率の伸び低かったのに対し、最終的には全面的な福音派の支持を獲得しているというデータもこのことからスムーズに理解できる。以下は、共和党支持者で毎週教会に行く人とより少ない頻度で教会に行く人との間で、トランプ支持にどのような違いがあるかを示した調査である。ここで分かるのは 2016 年 4 月までは、トランプはある程度宗教票を集めてはいるが、「毎週教会に行く」共和党支持者の 6 割近くがトランプに対して「懐疑的」だと捉えている。この時点で「ず

っとトランプを支持」という人はわずか5%に過ぎない。それが、「さほど多くは教会に行かない」という人だと「懐疑的」は36%、「ずっとトランプ支持」は28%となり、教会に通う頻度が低い人の方がトランプを積極的に支持していたことが見てくる。一方、6月の会議後だと、「強くトランプ支持」が「毎週教会に行く」人と「さほど多く教会に行かない」人で比較するとそれぞれ40%と41%になり、ほぼ誤差の範囲内という程度にまで差が縮まり、教会に通う頻度による差はなくなっている。⁽²²⁾ この会合が、福音派の人たちに与えた影響は計り知れない。トランプに反対する福音派のリーダーもいたが、多くの教団からトランプはお墨付きを得た、つまりは正式なゴーサインが出た場合と同様と言える。

さらにトランプは、副大統領候補にペンズ・インディアナ州知事を指名しダメを押した。予想では、保守派の重鎮ニュート・ギングリッチ (Newt Gingrich)、前ニュージャージー州知事クリス・クリスティ (Chris Christie) などの大物の名前が取り沙汰されていたが、結果的には福音派がより納得できる候補者になったのは当然である。マケインはサラ・ペイリン (Sarah Palin)、ロムニーはリック・サントラムを副大統領候補として選出したように、福音派というバックグラウンドを持たない共和党大統領候補者は、副大統領候補者選定には大きな集票マシンである福音派を無視できない。ペンズ副大統領はカトリックではあるが、本人自らが福音派を自認している上に、彼がインディアナ州で行ってきた政策がまさしく福音派を体現していると言っている。トランプが何らかの理由で失脚し、ペンズが大統領になるという事態になれば、より完璧な福音派の大統領が誕生することになる。

トランプ政権誕生後の福音派との関係

大統領就任後、トランプが矢継ぎ早に大統領令を出したのは記憶に新しい。彼ほど就任後の大統領令で物議を醸した大統領は他にいない。しかしこれもまた、彼ならではの戦略である。放っておいてもマスコミが支持者に対して自分の仕事ぶりを宣伝してくれるのだから、トランプとしては願ったり叶ったりのはずだ。イスラム教国からの入国禁止などの移民政策やメキシコ国境の壁建設など日本でも話題になった項目だけではなく、パリ

協定からの離脱もパイプライン建設の再開も、当然ながら、トランプは当選に大きな力を発揮した福音派の方をいつも向いていたのである。

この大統領令の中でも最も注目すべきは、“Promoting Free Speech and Religious Liberty” (2016年5月4日)で、「フリースピーチと宗教的な自由の促進」という字義通りに解釈すると、「宗教による差別や偏見の根絶を目指す」という内容の大統領令ととれる。トランプも大統領令を発令する際のホワイトハウスの演説で “We are giving our churches their voices back” と述べていたし、キリスト教に限定しない多くの宗教家をこの大統領令の署名時に招待することで、全ての宗教を対象にした大統領令であることを印象づけようとしている。トランプは、“We will not allow people of faith to be targeted, bullied, or silenced anymore. And we will never, ever stand for religious discrimination ever.” と、この大統領令が「信仰を持つ人」を対象にすると述べることで、特定の宗教を意識したものではないことを同演説で強調しているが、イスラム諸国に対する入国制限をうたう大統領令が対ムスリム差別を打ち出した政策であることを考えれば、“people of faith” はキリスト教信者、特に福音派へと向けられたものだと考えざるをえない。⁽²³⁾ だから、“religious freedom” というフレーズにきな臭さを感じる人も多く、別名 “license to discriminate” とも言われるほど、この大統領令の裏に別の意図があることが透けて見えてくる。そう、自らの信仰する宗教に反するという理由から、宗教的自由の名の下に、LGBT差別の実質的な許可や助長につながりかねないことが、この大統領令から危惧されている。(注6) 副大統領マイク・ペンズがインディアナ州知事時代の2105年に「宗教の自由回復法 (Religious Freedom Restoration Act)」という州法に署名し発効させている張本人だと分かれば、この懸念は決して杞憂でも的外れでもないことがお分かりいただけるだろう。当然ながら、各方面から異論が噴出し変更を余儀なくされるが、同様の州法は他州でも提出されている。(注7)

そういった大統領令の合間に、トランプは今後のアメリカの方向性に計り知れない影響を与えるであろうニール・ゴースッチ (Neil Gorsuch) への最高裁判事指名を行った。最終的に彼は任命され、

しばらくの間は保守派5人、リベラル4人となり、意見が分かれる司法判断で保守派寄りの裁定が下される可能性が高い。しかも、彼はまだ49歳である。まだまだ働き盛りなので、当分この判事職に留まっていられる。2017年2月の記事では、“I commend President Donald J. Trump and Vice President Mike Pence for selecting a judge with such a commendable track record on issues important to the Evangelical community.”というある福音派の指導者の言葉からは、今回のトランプの選択が福音派に歓喜をもって迎えられたことが伺える。⁽²⁴⁾ ファルウェルは、ゴースッチ承認後にはFox Newsの4月のインタビューで、トランプを“Dream President”と称え最大級の賛辞を送っているが、これはリップ・サービスではない。⁽²⁵⁾ 2月のSalonの見出し、“Payback to the Christian right? Donald Trump owes a huge debt—and Neil Gorsuch is the first installment”（トランプは福音派に大きな借りがあり、ゴースッチの指名がその分割払いの一回目にあたる）というのだから言い得て妙である。支持をした側とされた側の持ちつ持たれつの（よく言えばウィン・ウインの）関係性が的確に表されている。⁽²⁶⁾（注8）

このようは背景を理解していると、この時期のFox Newsでの白人福音派からの高評価も頷ける。トランプの仕事の評価として「良い」が73%もあり、「不満である」の23%を大きく上回っているのも当然のことだ。⁽²⁷⁾

結論

キリスト教というフィルターを通してアメリカを見直してみれば、同じ事象でも違った意味合いが浮かび上がってくるし、多少極論めいた言い方をすれば、キリスト教を考慮に入れなければ、アメリカの分析は不鮮明かつ不完全なものとなる。

トランプの「ハッピーホリデイズ」ではなく「メリークリスマス」をまた言えるようにしよう」という発言は、何も突発的な思いつきでトランプが言ったものではない。だから、この発言を単純化して、ポピュリストであるトランプが発した「反ポリティカル・コレクティブネス」という文脈だけで語られてはいけぬ。この言葉は、明らかにキリスト教右派を念頭に置いた発言だし、エルサレムへの首都移転問題に至っては言わずもがなである。

様々な人種や宗教が入り乱れるアメリカにおい

て、他文化への敬意を示す象徴としての「ハッピーホリデイズ」ではなく、キリスト教へと一元化しようとする「メリークリスマス」を大統領が率先して言うだけではなく国民に奨励するのは、字義以上の宗教的かつ政治的な意味合いを持つ。実際にトランプは何度もこの「メリークリスマス」を復活させるというレトリックを使って、リベラル勢力との対立軸を作り出し攻撃している。（注9）

先ほども触れた、白人至上主義者、KKK、ネオナチとリベラル派が衝突したシャーロットヴィルでの事件は、トランプ政権下では多くの「事件」が発生しているせいで忘れられがちであるが、トランプ政権及びトランプ本人の人種問題に対する攻撃的な姿勢が垣間見えた瞬間であり、この「メリークリスマス」の問題と同根である。「どちらのグループにも非がある（blame on both sides）」というトランプの言葉は、差別を肯定・助長するとして、一斉に非難を浴びた発言だったが、トランプは悪びれる様子を微塵も見せなかったし、あのファルウェルもトランプの発言を支持していた。

毎週、日曜学校のようにホワイトハウスにおける聖書研究会が開かれていることは日本では全くと言っていいほど話題に上らなかった。トランプは参加しないが政権内の主なメンバーが参加してこういった研究会が定期的に関われるのは歴史にもない異例中の異例のことである。⁽²⁸⁾ 加えて福音派のリーダー達が足しげくホワイトハウスを訪れオーヴァルオフィスに自由に出入りしているということも報じられている。彼らがトランプに寄り添い彼の肩や背中に手をあて、祈りを捧げている写真も数枚公表されている。*Christian Broadcasting News* (CBN) の記事はトランプ政権を“the most evangelical cabinet in history”と評しているのは全くもって大袈裟でも何でもない。⁽²⁹⁾ 両者が親密な関係にある写真を見れば、トランプ政権が福音派のための政権であることが伝わってくる。（注10）

トランプ政権というのは、実はジョージ・ブッシュ時代8年間に渡り我が世の春を謳歌したキリスト教右派の巻き返しに他ならない。オバマ政権2期のあいだ、わずかずつではあるが確実にキリスト教離れが進行し、特にLGBTの権利の向上という点で成果をあげたことは、聖書を絶対的なものとみなし重んじる福音主義派からすると耐え難い状況であり、未来像が描けない彼らには将来への不

安しかない。

だからこそトランプはキュロス大王やサムソンに例えられるのである。いずれもイスラエルの民を苦難から救ったとされる偉人ある。ペリシテ人の迫害を受けるユダヤ人、王国を追われバビロンに捕われたユダヤ人に自らを重ね合わせる現代の福音派の人々と、そこから救い出してくれるはずの、希望を与える強力なメッセージを放つ偉大な存在としてのトランプ。

トランプと福音派のこうした蜜月ぶりは、キリスト教国アメリカがキリスト教の価値観だけで国民を一つにまとめ導くことがもはや不可能であることの証明であり、その流れを押しとどめ、時計の針を戻そうとする勢力の必死の抵抗である。

注

- (1) これ以外にも『産経新聞』2015年4月17日の記事でも「共和党強硬派“鼻つまみ者のクルーズ”が投じた一石」というタイトルで詳細にクルーズの経歴や人物像が紹介されている。⁽³⁰⁾
- (2) 例えば、<https://www.youtube.com/watch?v=oV6yrGmL3H8>の映像を確認してみたい。ただし、この件に関しては異論もある。イギリスでは“Two Corinthians”という言い方が普通であるとか、アメリカでも同様の言い方も聞かれるとか、母親がスコットランドの移民だからその影響があるなど言われている。本人も、原稿にそう書いてあったからで自分のせいではない、という発言をしている。⁽³¹⁾ただ、トランプの発言後に笑いが聞こえるのは事実である。
- (3) 特に、カリフォルニア州での同性婚を巡る法廷闘争が知られている。婚姻は異性間に限るという Proposition 8 という名称の住民提案では、激しい反対運動（No H8 ノー・ヘイトと読ませる）が沸き上がり、多くのセレブが運動に協力するなど大きな話題を集めた。
- (4) 早々と選挙戦を降りたカーソンやペリーは宗教層からの支持が厚いせいか、トランプ政権入りを果たしている。ハッカビーは娘が現在報道官を勤めているので日本では娘の方が有名だろう。
- (5) この演説で、トランプは “We're going to protect Christianity. I can say that. I don't have to be political correct. We're going

to protect it.” とキリスト教信仰を守るということを確認している。

- (6) 同年の2月にリークされたこの大統領令のドラフトはもっと過激なものだったと言われている。⁽³²⁾
- (7) とは言うものの、この「宗教の自由」に関しては、福音派の立場からすると、例えば、全米福音派同盟（NAE = National Association of Evangelicals）は、“We welcome the promise, repeated today, that religious organizations will not be required to provide drugs that may act as abortifacients and services that violate their commitment to protect all human life.” と、自らの宗教的な信条に反する行為を行わなくてはならない信者たちを守るためにこの大統領令は必要だということになる。しかし、実際に「宗教の自由」を盾に特にLGBTのカップルへのサービスを拒否する差別が行われ、結果、訴訟が全米で何件も起こっていることを鑑みれば、この件は早急に結果を求めようとするよりは議論を深めるべきではなかったか。⁽³³⁾
- (8) トランプ本人も、“I think evangelicals, Christians will love my pick.” と述べるなど、福音派への感謝をにじませている。⁽³⁴⁾
- (9) *Newsweek* の “Donald Trump will save Christmas from liberals and their ‘Happy Holidays’” と *CNN* の “Donald Trump probably likes saying ‘Merry Christmas’ more than you” を参照されたい。トランプがいかに “War on Christmas” を戦っているかがよくわかる内容になっている。^(35, 36)
- (10) 例えば、*CBN News* の “Faith Leaders Pray for Trump in Oval Office, Enjoy ‘Open Door’ at White House” という記事を参照されたい。何人もの手がトランプの肩や背中に当てられているだけでなく、正面で祈りを捧げている人もいる。既に辞職したバノンが写っているだけでなく、写真にはオーヴァルオフィスと分かる壁紙が写っている。⁽³⁷⁾

参考文献

- (1) Pew Research Center : How the faithful voted: A preliminary 2016 analysis, 2018年4月20日, <http://www.pewresearch.org/>

- fact-tank/2016/11/09/how-the-faithful-voted-a-preliminary-2016-analysis/
- (2) *HuffPost*: <米大統領選> トランプよりヤバい？ トランプを追いかけるテッド・クルーズとは？, 2018年4月20日, https://www.huffingtonpost.jp/yuki-murohashi/ted-cruz_b_9456482.html
- (3) Pew Research Center : Religion and the 2016 presidential candidates, 2018年4月20日, <http://www.pewforum.org/2016/01/27/religion-and-the-2016-presidential-candidates/>
- (4) Pew Research Center : America's Changing Religious Landscape, 2018年4月20日, <http://www.pewforum.org/2015/05/12/america-changing-religious-landscape/>
- (5) Gallup : 2017 Update on Americans and Religion, 2018年4月20日, <http://news.gallup.com/poll/224642/2017-update-americans-religion.aspx>
- (6) Pew Research Center : Millennials increasingly are driving growth of 'nones', 2018年4月20日, <http://www.pewresearch.org/fact-tank/2015/05/12/millennials-increasingly-are-driving-growth-of-nones/>
- (7) Gallup : More U.S. Protestants Have No Specific Denominational Identity, 2018年4月20日, <http://news.gallup.com/poll/214208/protestants-no-specific-denominational-identity.aspx>
- (8) Gallup : U.S. Support for Gay Marriage Edges to New High, 2018年4月21日, <http://news.gallup.com/poll/210566/support-gay-marriage-edges-new-high.aspx>
- (9) Gallup : Religion in public life, 2018年4月21日, <http://www.pewforum.org/2016/07/13/2-religion-in-public-life/>
- (10) Pew Research Center : Most Americans Believe Protests Make the Country Better; Support Decreases Dramatically Among Whites if Protesters are Identified As Black, 2018年4月21日, <https://www.prii.org/research/survey-americans-believe-protests-make-country-better-support-decreases-dramatically-protesters-identified-black/>
- (11) *CBS News* : Partisan divide over Trump's response to Charlottesville: CBS News poll, 2018年4月21日, <https://www.cbsnews.com/news/americans-divided-over-trumps-response-to-charlottesville-cbs-news-poll/>
- (12) *Brookings* : Census Projects New "Majority Minority" Tipping Points, 2018年4月22日, <https://www.brookings.edu/opinions/census-projects-new-majority-minority-tipping-points/>
- (13) *The Baltimore Sun* : U.S. whites will soon be the minority in number, but not power, 2018年4月22日, <http://www.baltimoresun.com/news/opinion/oped/bs-ed-op-0809-minority-majority-20170808-story.html>
- (14) *The Washington Post* : Evangelical leader Jerry Falwell Jr. endorses Trump, 2018年4月22日, https://www.washingtonpost.com/news/post-politics/wp/2016/01/26/evangelical-leader-jerry-falwell-jr-endorses-trump/?utm_term=.9a3baf9f9bbb
- (15) *The Washington Post* : Here's why Liberty University has become a pilgrimage site for GOP candidates, 2018年4月22日, https://www.washingtonpost.com/news/acts-of-faith/wp/2015/03/25/heres-why-liberty-university-has-become-a-pilgrimage-site-for-gop-candidates/?utm_term=.b1fd3ac04bf6
- (16) *Newsweek* : Ted Cruz Could Be President—No, Seriously, 2018年4月22日, <http://www.newsweek.com/ted-cruz-president-cnn-town-hall-447599>
- (17) *World* : Liberty alumni trash Trump endorsement, 2018年4月22日, https://world.wng.org/2016/01/liberty_alumni_trash_trump_endorsement
- (18) *The Washington Post* : Trump received a glowing welcome from Falwell at Liberty University - but not everyone was convinced, 2018年4月23日, https://www.washingtonpost.com/news/post-politics/wp/2016/01/18/trump-received-a-glowing-welcome-at-liberty-university-but-not-everyone-was-convinced/?utm_term=.d9e576d97692
- (19) *USA Today* : Some Liberty University alumni are returning their diplomas to protest

- Trump, 2018年4月23日, <http://college.usatoday.com/2017/08/22/some-liberty-university-alumni-are-returning-their-diplomas-to-protest-trump/>
- (20) *NBC News* : Hillary Clinton and Donald Trump Maintain National Leads: Poll, 2018年4月23日, <https://www.nbcnews.com/politics/2016-election/hillary-clinton-donald-trump-maintain-national-leads-poll-n504131>
- (21) *LifeSite* : Trump meets with 1000 pro-life, evangelical leaders: pledges pro-life justices, 2018年4月23日, <https://www.lifesitenews.com/news/trump-meets-with-1000-pro-life-evangelical-leaders-pledges-pro-life-justice>
- (22) Pew Research Center : Churchgoing Republicans, once skeptical of Trump, now support him, 2018年4月23日, <http://www.pewresearch.org/fact-tank/2016/07/21/churchgoing-republicans-once-skeptical-of-trump-now-support-him/>
- (23) *NBC News* : Trump Signs ‘Religious Liberty’ Executive Order Allowing for Broad Exemptions, 2018年4月24日, <https://www.nbcnews.com/news/us-news/trump-signs-religious-liberty-executive-order-allowing-broad-exemptions-n754786>
- (24) *Deseret News* : ‘Evangelicals are ecstatic’ : Reactions to Supreme Court nominee Neil Gorsuch, 2018年4月24日, <https://www.deseretnews.com/article/865672373/6Evangelicals-are-ecstatic7-Reactions-to-Supreme-Court-nominee-Neil-Gorsuch.html>
- (25) *HuffPost* : Jerry Falwell Jr. Calls Donald Trump The ‘Dream President For Evangelicals’, 2018年4月25日, https://www.huffingtonpost.com/entry/jerry-falwell-jr-dream-president-trump_us_5906950fe4b05c3976807a08
- (26) *Salon* : Payback to the Christian right? Donald Trump owes a huge debt – and Neil Gorsuch is the first installment, 2018年4月25日, <https://www.salon.com/2017/02/01/payback-to-the-christian-right-donald-trump-owes-a-huge-debt-and-neil-gorsuch-is-the-first-installment/>
- (27) *Fox News* : Jerry Falwell Jr. : Moderate Republicans make my blood boil, 2018年4月25日, <http://video.foxnews.com/v/5416587832001/?#sp=show-clips>
- (28) *CBN News* : Bible Studies at the White House: Who’s Inside This Spiritual Awakening?, <http://www1.cbn.com/cbnnews/politics/2017/july/bible-studies-at-the-white-house-whos-at-the-heart-of-this-spiritual-awakening>
- (29) 同上
- (30) 『産経ニュース』 : 共和党強硬派“鼻つまみ者のクルーズ”が投じた一石, 2018年4月20日, <https://www.sankei.com/premium/news/150417/prm1504170008-n1.html>
- (31) *CNN* : Trump blames Tony Perkins for ‘2 Corinthians’, 2018年4月20日, <https://edition.cnn.com/2016/01/20/politics/donald-trump-tony-perkins-sarah-palin/index.html>
- (32) *The Nation* : Leaked Draft of Trump’s Religious Freedom Order Reveals Sweeping Plans to Legalize Discrimination, 2018年4月20日, <https://www.thenation.com/article/leaked-draft-of-trumps-religious-freedom-order-reveals-sweeping-plans-to-legalize-discrimination/>
- (33) *National Association of Evangelicals* : Responding to Religious Freedom Executive Order, 2018年4月22日, <https://www.nae.net/responding-religious-freedom-executive-order/>
- (34) *CBN News* : Brody File Exclusive: President Trump Says Evangelicals Will Love His Supreme Court Pick, 2018年4月23日, <https://www1.cbn.com/thebrodyfile/archive/2017/01/27/brody-file-exclusive-president-trump-says-evangelicals-will-love-his-supreme-court-pick>
- (35) *Newsweek* : Donald Trump will save Christmas from liberals and their “Happy Holidays,” 2018年4月23日, <http://www.newsweek.com/trump-war-christmas-heritage-687381>

- (36) *CNN* : Donald Trump probably likes saying 'Merry Christmas' more than you, 2018年4月23日, <https://edition.cnn.com/2017/10/13/politics/merry-christmas-donald-trump/index.html>
- (37) *CBN News* : Faith Leaders Pray for Trump in Oval Office, Enjoy 'Open Door' at White House, 2018年4月23日, <http://www1.cbn.com/cbnnews/us/2017/july/faith-leaders-enjoy-open-door-at-white-house>